

バレーボールで身に付く能力と、社会人に求められる能力の関係性

The relationship between ability acquired by playing volleyball and ability a business person is expected to have

1K06B145

指導教員 主査 倉石平先生

積田 紘樹

副査 吉永武史先生

【緒言】

現在、日本は不況の時代を迎えている。そのため、企業の厳しい状況下で行われた 2010 年度の就職活動は、大変厳しいものとなった。厳しい状況であるからこそ、企業側も少ない採用枠でより優秀な若者を求め、重視された項目が「スポーツ」であった。では、なぜ「スポーツ」がそれほど重要視されるのか、また、「スポーツ」をやることで、社会に出てどのような必要な能力を身につけられるのか。

このような疑問を研究するために、「スポーツ」というくくりをさらに小さくし、私が最も没頭してきたスポーツであり、体育の授業でもほとんどの生徒が学び親しみ深い「バレーボール」に焦点を当て、「バレーボールで身につく能力と、社会人に求められる能力の関係性」について研究したいと考え、これを卒業研究とした。

【研究目的と方法】

企業・学校教育の場で重視される「スポーツ」の中の「バレーボール」に焦点をあて、「バレーボールで身につく能力と、社会人に求められる能力の関係性」を明らかにすることを、この研究の目的とする。

バレーボールをすることによって、どのような能力が身につくか調査する。次に、「働く」ということについての、若者の就職活動の現状を調べ把握する。そして、企業が求める人材像の統計を踏まえて、社会人に求められる能力を調査する。最後に、「バレーボールで身につく能力

と、社会人に求められる能力の関係性」について考察する。

【結果】

<バレーボールに必要な能力とは>挨拶ではスポーツマンシップ。サーブカットのフォーメーションを考案する際には、分析能力、とっさの決断と実行する勇氣。サーブカットを行う際には、コミュニケーションを取ることや連携。トスをあげる際には観察力、瞬時の判断、分析能力、正確性。アタックを打つ際には、決断力、仲間とアドバイスをしあうこと。ブロックカバーを行う際には、瞬時の判断力、決断力、連携。レシーブを行う際には、瞬時の判断力、仲間との意思疎通。ブロックを行う際には、状況把握、瞬時の移動、連携。サーブを打つ際には、個性、チームでの戦略であった。

<社会人に求められる能力>2010 年 4 月入社の学生の就職活動の現状として、2009 年 8 月の時点で、継続中の学生が全体の 19.0%もいた。また近年、学生の就職観は、「楽しく働きたい」という傾向が強い。企業側は、求める人材像で「社会人基礎力」を重視している。「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」のことである。

【考察・結論】

バレーボールの部分動作では、様々な「社会人基礎力」が身につくと考えられ、一連の動作を行うことで、「社会人基礎力」に含まれる全

12 の能力を、総合的に磨きあげることのできる影響力があることも明らかになった。

今回の卒業研究では、バレーボールというスポーツを例に挙げ、今後、社会人となっても大きな影響力を秘めていることを明らかにしたが、一方、必ずしも社会人に必要な経験が、すべてバレーボールで身につくというわけではない。人間は勉強、スポーツ、人との交流など様々な経験をし、成功・失敗を繰り返し、その人の能力・人格として少しずつ形成され、社会人となっていくのである。つまり、バレーボールで磨きあげられた能力は、今後、社会人となって生きていく上で役に立ち、人間的成長をさせてくれる非常に重要な能力となる可能性を秘めていることが言える。